



## 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 4 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 29 年 3 月 14 日(火) 16:00~18:00
2. 開催場所 スタндарт会議室 虎ノ門 虎ノ門 SQUARE 店  
東京都港区虎ノ門 1-15-10 名和ビル4階

### 3. 議事次第

#### 《審議事項》

- (1) フォーラム平成 29 年度事業計画(案)、予算(案)について
- (2) CSR-NPO未来交流会(マッチング)について
- (3) 企業・行政等施設見学会について
- (4) 平成 29 年度フォーラム総会開催について

#### 《報告事項》

- (1) フォーラム平成 28 年度事業報告(案)について (事務局)
- (2) 平成 28 年度PT活動報告、平成 29 年度PT活動計画 (各PT長)
- (3) 法人化検討委員会(第 1 回)報告 (事務局)
- (4) その他

### 4. 出席者 (敬称略)

來生委員長、岡田委員、工藤委員、木村委員、中井委員、星委員、芦代理、藤橋代理、田久保委員、鈴木(康)委員、竹口委員、関口委員、芝原委員、楠代理、岩井代理、佐々木(宏)委員、佐藤代理、米村代理、川村代理、樋口代理、米森代理、高橋代理、鈴木代理、小山代理、細川(事務局)25 名出席

### 5. 議事メモ

#### 5-1 開会

##### ■事務局確認事項

- ・配布資料の確認
- ・出欠確認
- ・新委員紹介:星委員

#### (1)開会挨拶(委員長)

本年度第 4 回、最後の企画運営委員会を開催いたします。事務局から説明をお願いします。

#### 5-2 議事

##### 《審議事項》

#### (1)フォーラム平成 29 年度事業計画(案)、予算(案)について

##### 【決定事項】

フォーラム平成 29 年度事業計画(案)、予算(案)は提案の通り承認された。

(事務局説明)

資料1説明

- ・設立から 3 か年が経ち、次の成長期第 2 期の 2 年度に入った。平成 29 年度は中長期計画の中間点



にあたる。

- ・官民連携フォーラムの自立化に向けた取り組みとして、フォーラム活動の方向性の検討、資金調達の検討等法人化構想案を目指して、具体的に検討を進めて行く。
- ・政策提案の広がりとして平成 29 年度以降も海水浴復活など、それぞれの PT の議論の進捗に併せ、政策提案を増やしていきたい。一方で、官側の東京湾再生のための行動計画第二期の中間評価が議論されている第二期の今後の展開の中にもフォーラムからの政策提案や意見などの反映を図っていきたい。
- ・その他フォーラムの組織力を高めて行くため、会員増、広報量の増大、情報の受発信の活発化等を図っていく。
- ・未来交流会の実施、PT 活動の支援、また統一テーマによる東京湾大感謝祭の支援を行っていく。
- ・予算(案)については、平成 28 年度の実績をもとに作成している。

【審議経過】

とくに、質問なし

(2) CSR-NPO未来交流会(マッチング)について

【決定事項】

**CSR-NPO未来交流会(マッチング)実施(案)は提案の通り承認された。**

(事務局説明)

資料 2 説明

- ・企業にとっても NPO にとっても魅力的な交流会をどうやって作り出すか、事務局内でも議論しながら準備をしている。
- ・マッチングでうまくいった事例の紹介の後、企業と NPO との情報交換を予定している。

【審議経過】

とくに、質問なし

(3) 企業・行政等施設見学会について

【決定事項】

**企業・行政等施設見学会の実施は、提案の通り承認された。**

(事務局説明)

資料 3 説明

- ・平成 27 年度は東京都で、平成 28 年度は横浜市で施設見学会を実施した。平成 29 年度は、千葉方面での施設見学の提案である。

【審議経過】

とくに、質問なし

(4) 平成 29 年度フォーラム総会開催について

【決定事項】

**平成 29 年度フォーラム総会開催日時(案)は提案の通り承認された。**

- ・開催日時：平成 29 年 10 月 21 日（土）9:30～11:20

(事務局説明)

資料 4 説明

- ・東京湾大感謝祭 2017 とあわせて総会を開催する。
- ・平成 29 年度は、ヨコハマトリエンナーレ 2017 の開催により横浜赤レンガ倉庫 1 号館はこの期間利用で



きない。代替案として、横浜大棧橋 CIQ プラザまたは横浜市開港記念会館を予定。

【審議経過】

とくに、質問なし

《報告事項》

(1) フォーラム平成 28 年度事業報告 (案) について (事務局)

【報告】(事務局)

資料 5 説明

- ・平成 28 年度がまだ終了していない時点であるが、本日までの事業成果をまとめた。
- ・成果として、パブリック・アクセス方策に関する第 1 次政策提案が取りまとめられた。
- ・(一財) セブン-イレブン記念財団と東京湾再生官民連携フォーラムが基本協定を結んだ。
- ・東京湾再生官民連携フォーラム平成 28 年度通常総会開催。
- ・CSR-NPO 未来交流会を 2 回開催等。

《質疑応答》

とくに、質問なし

(2) 平成 28 年度 P T 活動報告、平成 29 年度 P T 活動計画 (各 P T 長)

◆東京湾大感謝祭 P T 活動

【報告】(木村 PT 長)

資料 6-1-1、6-1-2 説明

- ・平成 28 年度は 9 万 8000 人の来場者があり、4 年目にしてそろそろ本気になって活動する人が増えてきたことはなによりうれしい。より一層の連携が図られ新たな人に伝えていくことができればと思う。
- ・平成 29 年度の東京湾大感謝祭の計画は、最終日の終了時間が、撤収時間を勘案して少し早めとなっている。(終了 16:30 予定)
- ・横浜赤レンガ倉庫 1 号館が使用できないので、他の会場を予定している。(大棧橋、横浜市開港記念会館)

《質疑応答》

- ・大棧橋の利用見通しはどうか。
- 大棧橋は開催当日、国内航路の客船利用があり、現在調整中である。

【追加説明】田久保 東京湾大感謝祭実行委員長

今年の計画は、前回のような「ふるさと納税」のイベントはない。代わりに、「共生のきずな」神奈川県主体のイベントが同時に開催される予定。全体的には規模も大きくなる予定である。

【追加補足説明】フォーラム事務局

昨年の特別コラボ企画「ふるさと納税大感謝祭」61 自治体/48 小間。神奈川県共生のきずなフェス(仮)からは 20 小間程度、出展を予定しているとのこと。約 30 小間分の新規出展がないと昨年並みの開催とならないので、出展促進への協力をお願いします。

◆東京湾環境モニタリングの推進 P T 活動

【報告】(代理 事務局)

資料 6-2-1 説明

- ・東京湾環境一斉調査を協力実施した。これをもとに東京湾環境マップを作成している。そのまとめが資料 6-2-2 である。



- ・平成 28 年度の環境マップでは、「江戸前」をテーマにした整理となっている。
- ・平成 29 年度も引き続き東京湾環境一斉調査協力等同様の活動を実施していく。

#### ◆生きもの生息場PT活動

【報告】(代理 岡田副 PT 長)

資料 6-3 説明

—平成 28 年度活動報告—

- ・大感謝祭では千葉県水産総合研究センターの支援により、平成 27 年度の当 PT からの政策提案に関連するマコガレイの卵や稚仔魚をはじめ、東京湾再生の目標となりうる様々な生き物を展示。
- ・平成 29 年度は十分な企画準備の時間を確保するよう努力する。また、来場者が比較的少なかったことや企画が急な展開となったことに関し、大感謝祭の企画準備段階での改善も必要である。
- ・PT 会合では国土交通省関東地方整備局港湾空港部から、政策提案「マコガレイの産卵場の底質改善」に関連し、材料となる土砂資源の見込みに関する話題提供があった。
- ・PT 会合では風呂田氏から、東京湾内河口部の塩性湿地や泥干潟における生物多様性を踏まえた環境再生の提案に関する話題提供があった。

—平成 29 年度の活動計画—

- ・政策提案「マコガレイ産卵場の底質改善」の具体化に向けた検討と再生目標に関する議論、および平成 29 年度東京湾大感謝祭における企画の検討を進めていく予定。
  - ①千葉県水産総合研究センター石井氏を中心に WG を構成  
「マコガレイの産卵場の底質改善」の具体化に向けた協議
  - ①東京大学野村氏、東邦大学風呂田氏を中心に再生目標 WG を構成  
政策提案「生き物生息場づくりに関する提案」に関連し、生き物生息場づくりの理念の共有
- ・ポスターだけではなく平成 29 年度の大感謝祭・シンポでは PT のさまざまな形の展示を募集するので、今からの準備をお願いする。

#### ◆指標活用PT活動

【報告】(岡田 PT 長)

資料 6-4 説明

—平成 28 年度活動報告—

- ・指標 PT が政策提案した 28 項目の指標の中には、市民活動データ等、行政のみでは収集が困難な指標がある。指標活用 PT は、そのデータの収集のサポートをした。
- ・データ収集の結果を東京湾大感謝祭 2016 で展示発表した。また、東京湾再生推進会議の行動計画第 2 期中間評価報告として情報提供をした。

—平成 29 年度の活動計画—

- ・市民活動データの収集について、調査方法を改善・再検討したい。データ収集結果は東京湾大感謝祭でポスター展示を予定。
- ・東京湾再生推進会議の行動計画第 2 期中間評価報告を受けて、推進会議と協働し、各指標の考え方(具体的収集データの種類)および各指標の評価方法について見直しを検討していく。

#### ◆東京湾パブリック・アクセス方策検討PT活動



【報告】(竹口 PT 長)

資料 6-5 説明

—平成 28 年度活動報告—

- ・毎偶数月に PT 会合を開催した。また、メンバーの一部で現地調査を実施した。
- ・東京湾パブリック・アクセス方策に関する第一次政策提案(案)を取り纏め、昨年 10 月 22 日のフォーラム総会において、原案を承認いただいた。

—平成 29 年度の活動計画—

- ・東京湾再生推進会議へ政策提案されたのち、フォローとしてその具現化に向け、協力して行く。
- ・第二次政策提案(最終提案)に向けて、①工場等民間敷地の活用方策を検討する。②海・川からのアクセスを検討する。③他の PT の研究成果をパブリック・アクセスに反映させていきたい。また、他の PT の検討状況を注視し、パブリック・アクセスの視点場等を増加させる。

《質疑応答》

- ・海・川からのアクセス方策検討の学校教育との連携で、小学校が東京湾で底質調査をした話が報告されたが、学校名と調査場所が分かれば教えて頂きたい。
- 具体的な学校名は分からないが、東京の学校である。場所は羽田沖である。

◆東京湾での海水浴復活方策検討 PT 活動

【報告】(関口 PT 長)

資料 6-6 説明

—平成 28 年度活動報告—

- ・①2016 年 5 月 23 日城南島海浜公園、②2016 年 11 月 7 日大森ふるさとの浜辺公園及び東扇島かわさきの浜、③2017 年 1 月 18 日ふなばし三番瀬海浜公園及び横浜海の公園でそれぞれヒアリング調査を実施した。現在、ヒアリング結果をとりまとめ中である。

—平成 29 年度の活動計画—

- ・近々、PT を開催し、ヒアリング結果を報告するとともに、政策提案について検討する予定。
- ・海水浴の復活に関しては、それぞれ地域で足並みが早いところ遅いところがある。海水浴場は東京湾内湾では初めてのことであり、結果を出していくには、資金面と活動体制が課題となる。その辺を政策提案に盛り込みながら、今までの活動体験を踏まえて提案をしたいと思っている。

《質疑応答》

- ・活動成果は、平成 29 年度政策提案に結びつきそうか。
- 現在、ほとんどの海面が遊泳禁止である。NPO 活動成果としては、葛西海浜公園西なぎさは、「遊泳禁止」から「許可なく遊泳禁止」になった。地域の状況に合わせて進められる。そのため、それぞれの地域に応じた主体を置いて、結果として一歩前進することが大事と考える。
- ・海ゴミや砂浜の中にもマイクロプラスチックがある。これは世界的な問題なので、フォーラムのような会で検討していただきたい。
- ・2020 年にはオリンピックもある。政策提案にまとめる努力もよろしく願います。
- 海水浴が復活できることは、東京湾の再生と同時に共生の道に入っていくことだと思う。海苔の養殖を 5 回実施し、3,000 名の親子に参加してもらった。このことは、東京湾を再生することに通じ、養殖イベントの定着は、ある種オリンピックのレガシーであろうと思っている。



### ◆江戸前ブランド育成 PT

【報告】(代理 藤橋(水産庁)代行)

資料 6-7 説明

—平成 28 年度活動報告—

- ・東京湾大感謝祭にむけ水産関係団体からの協力体制を構築。(全漁連、大日本水産会、東京水産振興会、味の素等が協力) 東京湾大感謝祭 2016 にてポスター展示等江戸前情報発信した。また、ステージでは体験型の企画イベントを実施した。実施(旨味体験:旨味成分の味比べ江戸前の魚のおいしさ理解)、あわせて Wonder Café で「江戸前」の発表。
- ・モニタリング PT 主催、環境一斉調査ワークショップへ参加し、H28 東京湾マップ作成に際し、江戸前関連情報の整理・提供を行った。
- ・3 月 27 PT 会合を開催し、大感謝祭企画案および PT 活動方針を協議した。

—平成 29 年度の活動計画—

- ・東京湾大感謝祭 2017 の企画立案、関係団体との協議を開始した。大きなテントで「旨味の体験」をグレードアップした形で提供していきたい。このため企業の協力を仰ぐ予定。できればこの企画運営委員会でもうまみ成分の体験をしてもらいたい。
- ・新体制下における江戸前 PT の活動方針を再検討する。おいしさを伝える活動を行い、次世代の子供たちに向けての食育活動を実施していきたい。

### ◆東京湾の窓 PT

【報告】(芝原 PT 長)

資料 6-8 説明

—平成 28 年度活動報告—

①PT 会合

- ・大感謝祭への出展企画、施設団体リストやフォーラムのイベントカレンダーについて検討した。
- ・大感謝祭出展のふりかえり、パブリック・アクセス PT 及び東京湾体験ニーズの掘り起こしについて意見交換した(東京湾にどれだけ訪れてくれるかが課題で、どうしたら公営施設に多くの市民が訪れてくれるかを検討)。

②その他の活動 <東京湾の施設アピールの実施>

- ・10 月 22 日・23 日 東京湾大感謝祭に出展「東京湾わくわく・体験スポット案内所」を開設した。東京湾岸マップ及び各施設、団体の紹介パンフレットの配布、体験コーナー運営。
- ・2 月 5 日 東京湾環境学習フォーラム(主催:浦安三番瀬を大切に作る会)への協力をした。風呂田氏による講演会、PT メンバーと地元の団体・博物館職員によるパネルディスカッション。

—平成 29 年度の活動計画—

- ・平成 28 年の実績を踏まえて、次回の PT 会合において具体的な活動を決定予定。
- ・政策提案の方向性の検討や自治体への関心事などの把握。

### ◆浅瀬再生 PT

【報告】(鈴木 PT 長)

資料 6-8 説明

—平成 28 年度活動報告—



- ・PT メンバーより事例報告等を頂き、勉強会を実施。企業護岸が多いことを実感している。  
事例：①千葉県漁連の取り組み ②有明海・八代海での干潟・浅場再生実験 ③横浜市の水際線利用の現状等。
- ・横浜市中区の自動車道は、周りが浅瀬であるので、利用できないかなど模索している。

—平成 29 年度の活動計画—

- ・実験的に行っている国交省関東地方整備局の環境共生型護岸による人工干潟『潮彩の渚』の見学や東京都の事例を取り上げる予定。

《質疑応答》

- ・広島の高専が広島湾で浅場再生の研究会を立ち上げている。3 月 22 日に放送大学で関係者の方が研究会を実施するので、申し出があれば聴講可能である。

■PT 報告全体通しての質疑・応答、意見

- ・国交省提案で三番瀬周辺の航路浚渫の予定があり、浚渫土砂をマコガレイの産卵場(マウント漁礁)に利用する。水産庁は千葉県に貧酸素水塊の調査委託しモニタリングができそうである。現在調整中であるが、官官連携でさらに、生きもの生息場の研究が進展、充実する可能性がある。(水産庁)

### (3) 法人化検討委員会(第 1 回)報告

【報告】(事務局)

資料 7 説明

- ・フォーラムは任意の団体である。そこにセブン-イレブン記念財団さんに 4 年にわたり支援をいただいている。法人格を持ち社会的信用がある組織であれば、いろんな方から浄財を受けやすいのではないかと、法人化の道を探る議論をおこなっている。
- ・フォーラムの活動の広がりと共に法人格の必要性の確認をおこなった。フォーラムの性格をどういうふうにするために、どう法人化が必要なのかという整理をした。
- ・官と民が連携していく活動のダイナミズムが必要で、一緒になって新しい活動ができることが大切。活動をさらに進めていくために、組織、資金が必要という、検討目的の基本整理をした。
- ・将来に向けて官と民と一緒に課題を解決することが重要と考えた。官側の立場や責任にとらわれない関与と共に、事務局の法人化というダイナミズムを内包したハイブリッド的な組織ができないかということを探っている。さらに議論を深めていく。

《質疑応答》

- ・官民連携がスタートし、それぞれの立場で研究を重ねて政策提案していく、その先の問題が大きな課題である。大学の研究機関ではない、目的をもった研究機関を創設するとか、官民とかいうのではなく同時だと思う。いつまでに東京湾を再生するかということは大変大きな問題である。あらゆる都市の再生と同時に生活の仕方にまで至る。海水浴一つをとっても色々な状況が生まれている。その一つを成功させるにはいろんな角度から研究者が集まって一つの目的を達成させることをしないとなかなか先に進まない。これを機にそれを明確に出して法人化を進めれば結果は出てくると思う。

まずは、その先に何があるのかということメッセージとして出していきたい。行政が壁となったり、協力となったりする。スピーディに法人化して結果をだしていくシステムをどう作るのかが大きな命題になっているのではないと思う。

- ・継続的に行っていく事が大きなテーマと思う。そのためには、どういう形で官民連携を持っていくのか、その中でも財源は無視できない課題の一つになると考えている。その辺を踏まえて再度みなさんと検



討していただければと思う。

#### (4)その他

・ブルーカーボン研究会の情報共有をお願いします。(東京湾大感謝祭 PT 長)

→ 今年 2 月に「ブルーカーボン研究会」が立ち上がった。国交省、水産庁が連携し、関係の団体が参加している。ブルーカーボンは、アマモなどにより吸着でき、CO<sub>2</sub>を固定化する研究で国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所の研究など、アマモなどにより固定化した炭素の定量化の見込みも立ってきた感あり、ブルーカーボンの学術的知識の共有と、固定化したCO<sub>2</sub>が将来的には、カーボンオフセットとしての対象となってくる。どうやって社会的に実現できるのかなどの研究を行っていく予定である。

今始まったばかりで、フォーラムとも連携する機会があるかと思う。(国交省港湾局)

##### 【ブルーカーボン研究会】

ウェブサイト:みなと総合研究財団 [http://www.wave.or.jp/doc/2017/doc/170210\\_bluecarbon.pdf](http://www.wave.or.jp/doc/2017/doc/170210_bluecarbon.pdf)

→ 当財団もみどりの基金からはじまり25年が経つ。みどり、山関係に特化した形で活動してきた。これからはブルーカーボンのテーマを重点的に強化していきたい。東京湾だけではなく、広島湾、大阪湾などいろんなところで抱えている問題である。先駆的な取り組みなどを見える化していく。みなさんに知ってもらう行為が大切。ブルーカーボンという言葉を使い、より一層この会が発展していけるようにしていきたい。当財団にもブルーカーボンに関する活動を取り入れていきたいと思っている。(セブーン-イレブン記念財団)

・東京湾再生推進会議への取り組みへの協力感謝する。3月9日に東京湾再生推進会議が開催され、行動計画第二期の第1回中間評価をとりまとめたところである。フォーラムからの提案をもとに28の指標が策定されている。内容としても第1期と比べ充実した評価ができています。取りまとめにあたりフォーラムのみなさま方のご意見に感謝する。

また、中間評価のとりまとめで課題があぶりだされている。新たな課題にも取り組んでいく。これまで実施してきた施策を推進していくので協力をお願いしたい。

東京湾大感謝祭などへの官民連携は予定されている。フォーラムの協力をお願いと官民連携にますます協力していきたい。(海上保安庁)

・東京湾大感謝祭では、中間評価報告などの展示をしていただけるか。(東京湾大感謝祭 PT 長)

→ まだ、何を展示するかは未定である。(海上保安庁)

以上